

(共同研究)
エコライフによる個人，企業の意識改革への取り組み

第2部 環境意識調査 2000年

小谷野錦子 (愛知学泉大学経営学部)
柳堀 朗子 (愛知県立看護大学)
梅里 迪正 (愛知学泉大学経営学部)

キーワード：

アンケート調査	Questionnaire Survey
環境意識	Environmental Awareness
ライフスタイル	Life-Style
ゴミ減量	Waste Reduction
省エネ	Energy Conservation

地球温暖化などの環境問題が日々報道され、人々の環境問題への関心は高まっている。しかし、環境問題の認識と環境保全や環境にやさしい行動の実施とは必ずしも一致していないことが世論調査等、数多く報告されている^{1),2)}。その背景には、個人のライフスタイルの改善効果が目に見えた形で現われにくい、現在の快適な生活が不便になることへの抵抗があるなどの阻害要因が潜んでいることは容易に予測される。市民の意識改革によるエコロジカル・ライフの形成には、どのようなアプローチが適切なのだろうか。本研究では、その解決を大学を主体とした市民・学生への環境教育の中で実践することを最終目的に設定し、その第一段階として本学園保護者と学生の環境意識の現状とその問題点を探るための調査を実施した。

1. 対象と方法

対象は学校法人安城学園に属する2高校の保護者および大学経営学部、家政学部と短期大学の保護者と学生であった。調査票の配布は高校では担任の協力が得られたクラスにおいて調査票を学生に配布し、保護者に回答を依頼した。大学・短期大学では、保護者には郵送による配票、学生には協力の得られた教員の講義時に調査票を配布した。調査は2000年11月末から12月中旬にかけて行い、調査票の回収は、保護者は郵送、学生は回収箱へ投函による回収とした。調査票の配票数と回収数(回収率)は以下の通りであった。保護者：A高校800票配布、回収455票(56.9%)、B高校600票配布、回収249票回収(41.5%)、大学871票配布、305票回収(35.0%)、学生：582票配布、387票回収(66.5%)。

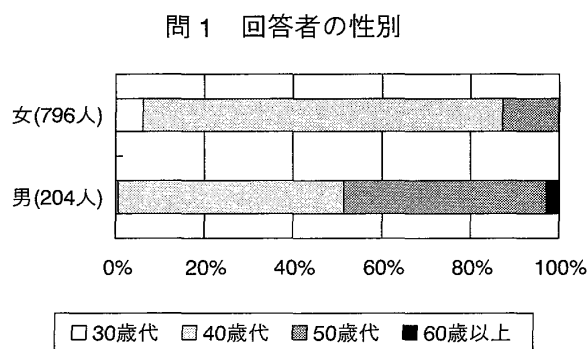
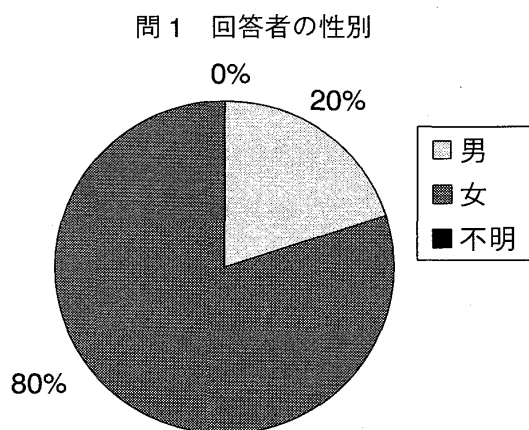
調査票は属性、環境全体の評価、ごみやリサイクルについて、日常生活について、環境に関することばや行動、環境についての考え・感じていること、環境問題の解決についての7項目、合計29問から構成された。調査票の開発には、環境庁の世論調査、我々が実施した先行調査等²⁻⁶⁾を参考にし、高月等の開発したライフスタイル・チェックシート⁶⁾に関しては、表現に一部修正を加えて調査票の1設問とした。

2. 結果と考察

本報告では郵送回収した保護者分について男女別に集計した結果を示す。保護者分として郵送されてきた中に、年齢が20歳未満の者がみられたため、「30歳以上で職業が生徒・学生以外」という条件の下にデータを選択し、1002名を有効回答(有効回答率99.3%)として分析した。

(1) 属性

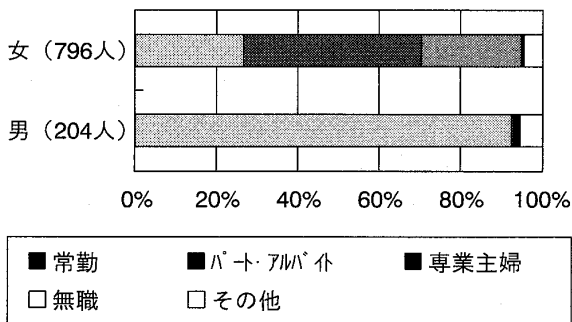
回答者のうち男性は204名(20.4%)、女性796名(79.4%)、不明2名(0.2%)であった(問1)。年齢分布では、男女とも40歳から50歳代が最も多かったが、男性では40歳代



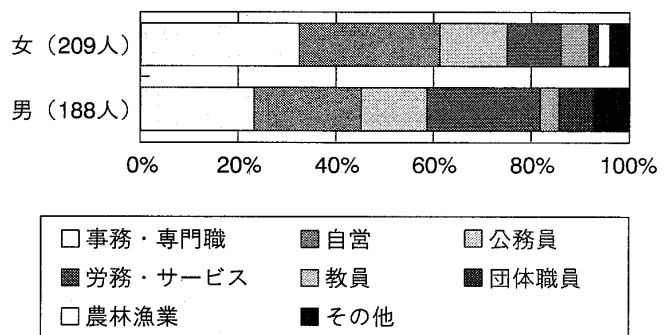
51.0%, 50歳代 45.6%とほぼ同率であったのに対し、女性は40歳代 81.0%, 50歳代 12.7%と40歳代が圧倒的に多かった(問2)。

職業(問3)では、男性は92.6%が常勤者であったが、女性は常勤 26.6%, パート・アルバイト 43.8%, 専業主婦 24.5%と雇用形態ではパート・アルバイトが最も多く、また働いている者が全体の70%を占めていた。常勤者の職業では男女とも事務・専門職が最も多く(男 36.7%, 女 32.5%), 次いで男性では労務・サービス(19.1%), 自営(18.1%), 公務員(11.2%), 女性では自営(28.7%), 公務員(13.9%), 労務・サービス(11.0%)の順であった(問4)。

問3 仕事の形態

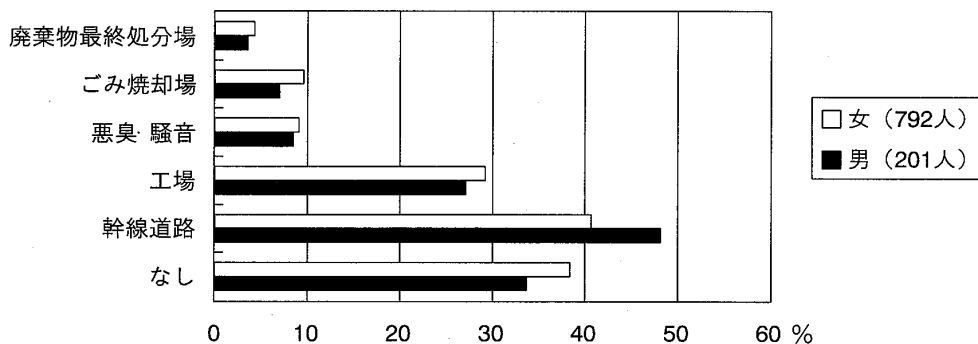


問4 常勤者の職業

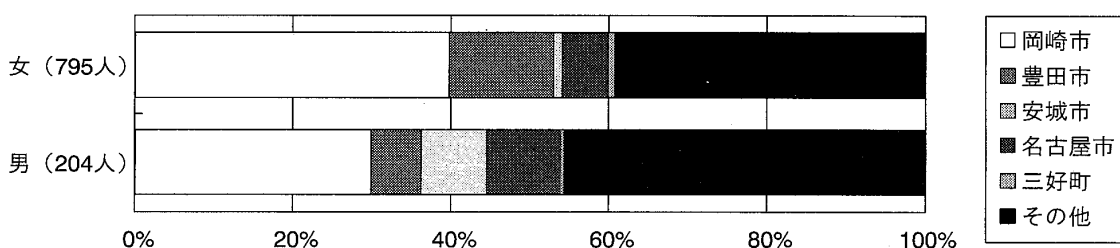


同居者では(問5)、同居者がいないと回答した者はなく、配偶者(男 94%, 女 89%)・子(男 93%, 女 96%)と同居している者が高い割合を占めた。親と同居は男性が28.9%, 女性が37%であり、祖父母と同居も5%と、核家族以外の家族形態が3分の1にみられた。

問6 迷惑施設の有無(複数回数)



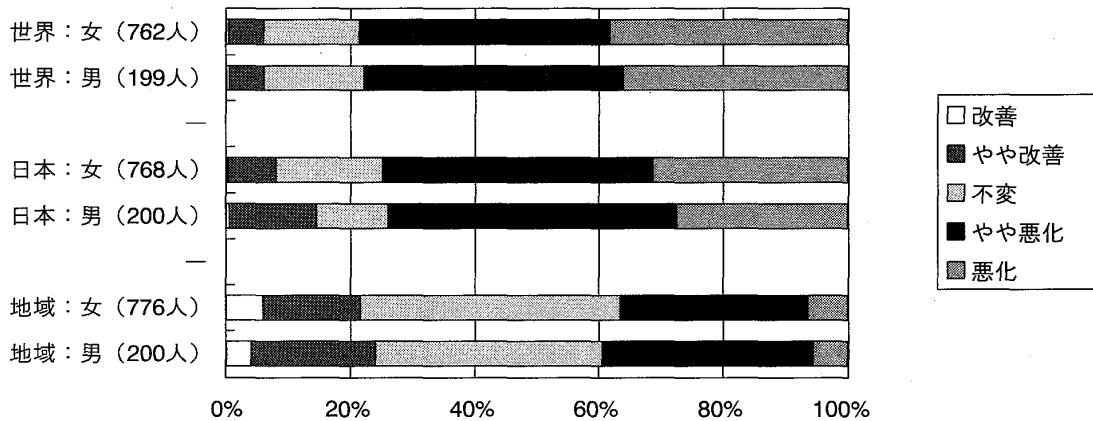
問7 回答者の居住地



居住環境では(問6)幹線道路が近くにある者が42%と多く、いわゆる迷惑施設が近所にはないという者は37%であった。回答者の居住地(問7)は岡崎市が男30%、女36%、豊田市、安城市がそれぞれ約10%であり、名古屋市は男9.3%、女5.3%であった。これらの市以外の居住者は男45.6%、女35.5%であり、男性が10ポイントほど高い割合であった。

(2) 環境全体について

問8 環境変化に対する評価

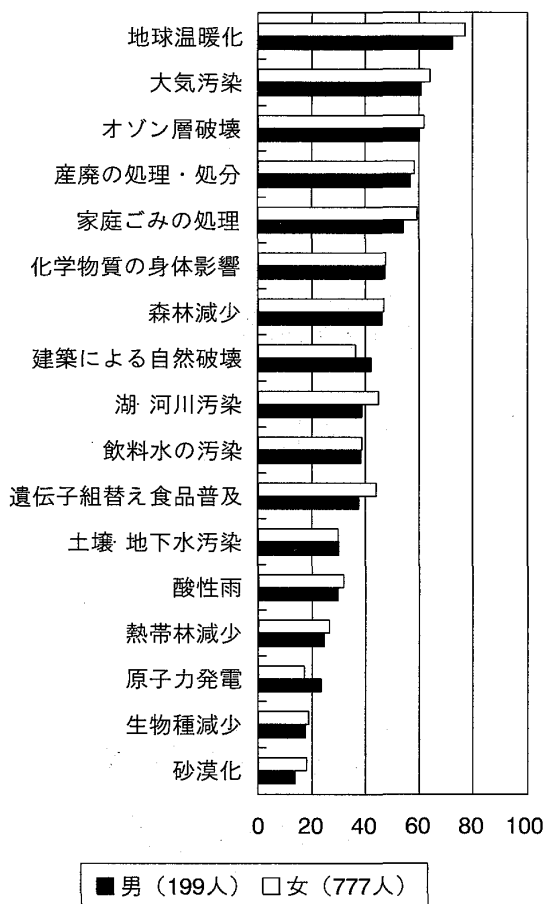


環境に対する評価(問8)では、地域、日本、世界について「良くなっている」から「悪化している」までを5段階評価でたずねた。評価を改善1、悪化5の5段階で得点化して平均を求めたところ、地域(男3.17、女3.15)、日本(男3.87、女3.98)、地球(男4.08、女4.10)となり、評価得点に男女差はなかった。地域、日本、世界の順に悪化していると回答する割合が高く、評価得点の平均値でも同様に評価していることが示されていた。地域の環境評価は日本、世界に比べると「やや良くなっている」「変わらない」という回答が多く見られた。自分の住む身の回りの環境に比べ、日本や世界の環境悪化が進んでいると考える人が多くなる要因には、日本や世界という大きな圏域に対する意識は、判断する情報の入手手段がマスメディア等を通して得るほかにないため、マスメディアの情報をそのまま受け入れていることが考えられる。正確な判断をするためには、正確な情報を入手することが重要であることも本結果は示唆していると考えられる。

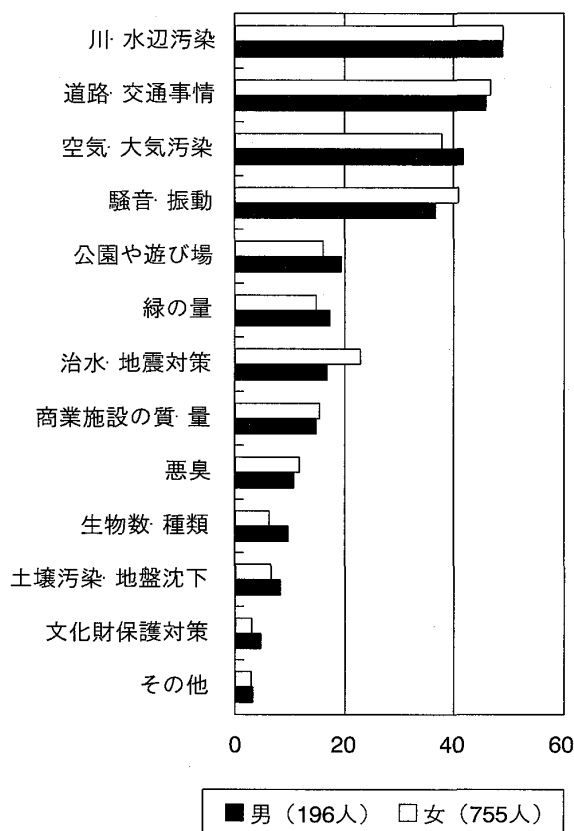
深刻な問題と思う事柄を17の選択肢から3つ選んでもらった(問9)ところ、男女共に、地球温暖化が70%以上と最も多く、大気汚染、オゾン層の破壊、産業廃棄物の処理・処分、家庭のごみ処理の5項目を男女共に過半数が選択していた。また、家の周りの環境で改善すべきことについて13項目から3項目の選択できた(問10)ところ、男女共に川・水辺の汚れ、道路・交通事情、騒音・振動、空気・大気の汚れを選んだ者が多かった。

地球温暖化、大気汚染、オゾン層破壊という地球規模で深刻な環境問題と、川・水辺の

問9 深刻な環境問題（3つ選択）



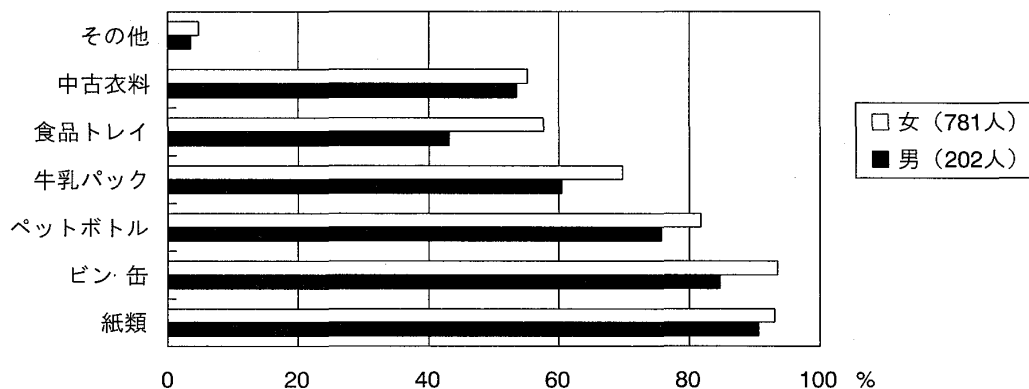
問10 身の回りで改善すべき環境問題（3つ選択）



汚染、道路・交通事情などの身の周りの環境問題がどこで結びつくか、その接点をしっかりと認識しないと、地球規模という意識しにくい環境問題を自分の問題としては認識できず、大変な問題ではあるが、自分にはあまり関係ないという態度に結びつきやすい。より具体的に生活者として実感できる環境問題と、地球環境問題のような実感しにくい問題との因果関係や、その関係の重さが明らかにできれば、市民の環境問題に対する意識がより明確になるものと考えられる。

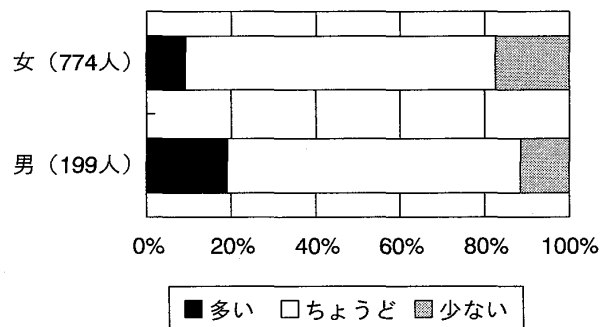
(3) ごみやリサイクルについて

問11 日ごろのリサイクル（複数回答）

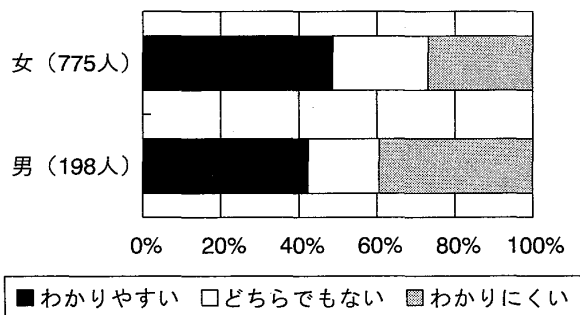


日ごろリサイクルをしている品目 (問 11) では、紙類 (男女共 90%以上)、ビンや缶 (男 85%, 女 94%), ペットボトル (男 76%, 女 82%) がよく行なわれている品目であった。牛乳パックや食品トレイは女性に比べ男性ではリサイクル実施率が 10 ポイント程度低かった。

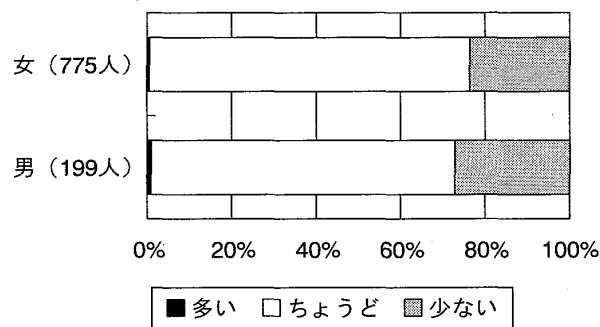
問 12 (1) ごみの分別数



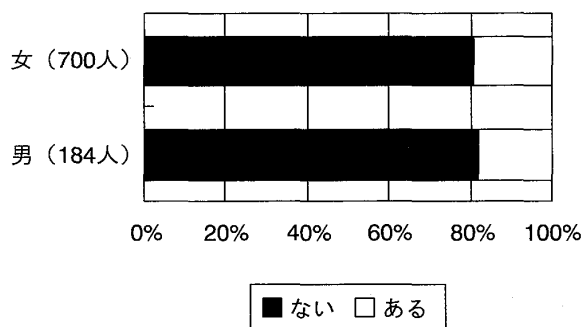
問 12 (2) ごみ分別方法のわかりやすさ



問 12 (3) ごみ収集回収

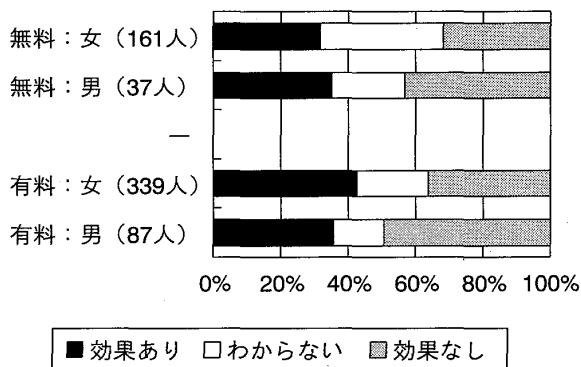


問 12 (4) 他の分別して欲しいものの有無

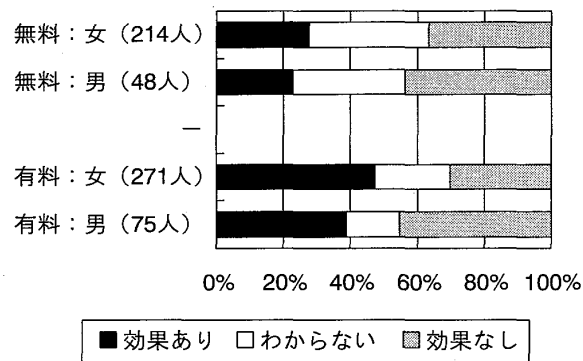


地域のごみの分別に関して (問 12) は、分別数、分別方法の評価で男女差が見られ、男性の方が分別数が多い、分別方法がわかりにくいと感じていた。しかし、分別回数についてはちょうど良いが4分の3、他に分別してほしいものがあるかという問いに関してはないが80%と男女共に現状で満足していた。

問 13 (1) 一般ゴミ有料制度と減量効果

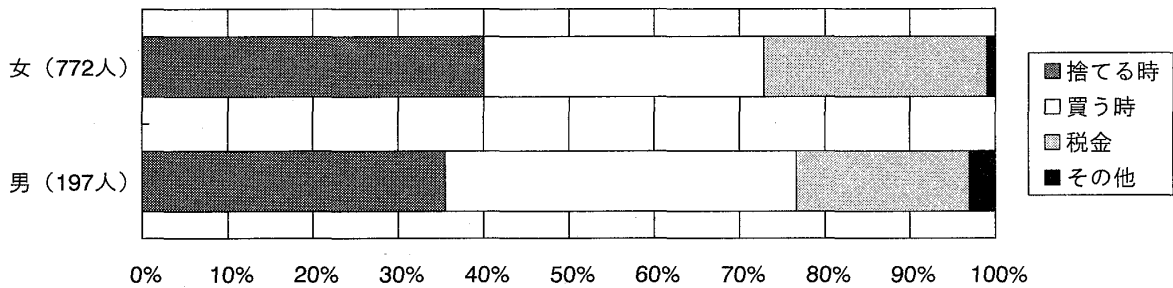


問 13 (2) 粗大ゴミ有料制度と減量効果



一般ごみや粗大ごみの有料制度（問 13）については、一般ごみが現在有料である者は全体の 46%，粗大ごみが有料である者は約 38%であった。有料化のごみ減量の効果に関しては、有効とする回答率は一般ごみ，粗大ごみとも全体では 40%未満であり高い評価ではなかった。しかし，一般ごみ，粗大ごみともに，現在有料である場合には，有料によるごみ減量効果があるとする割合は男女とも高くなっている。殊に，女性の場合で粗大ごみ有料制度の場合には約 20 ポイント高い値であった。男性では効果なしと判断するものが多く見られた，また，現在無料の者においては有料になることがごみの減量には結びつかないと判断していることも示された。

問 14 耐久消費財のリサイクル費用負担

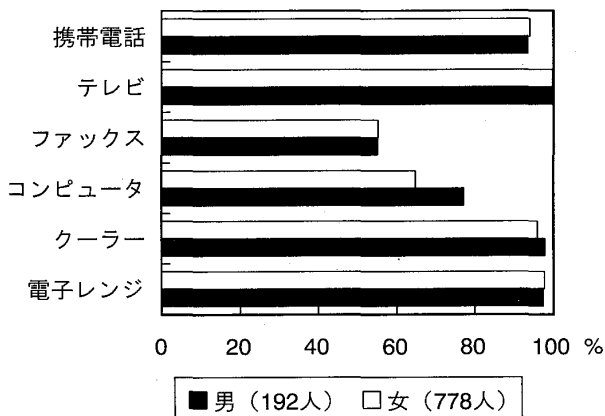


家電リサイクル法の 2001 年 4 月からの実施を念頭に置き，耐久消費財の処理費用負担についてをたずねた（問 14）ところ，男性は買う時に負担が 41%，女性は捨てる時に負担が 40%で最も多く，既に払っている税金で賄うという考えも女性は 26%と男性よりも 6 ポイント高く，男女に考え方の違いが見られた。

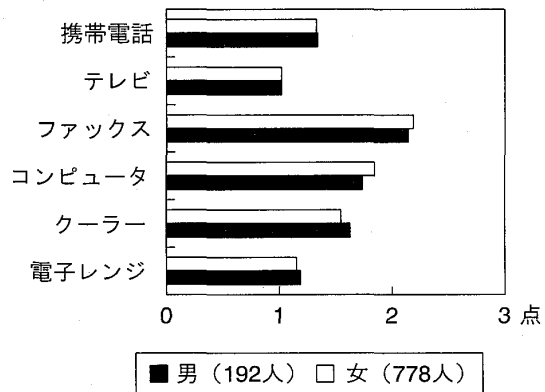
(4) 日ごろの生活について

主要な家電製品について保有と，利用度をたずねた（問 15）ところ，保有，利用度ともに男女に違いは見られなかった。しかし，野菜のトレー，スーパーのレジ袋などのサービス関連の利用と必要性について（問 16）では，野菜のトレーの利用率は女性の方が高

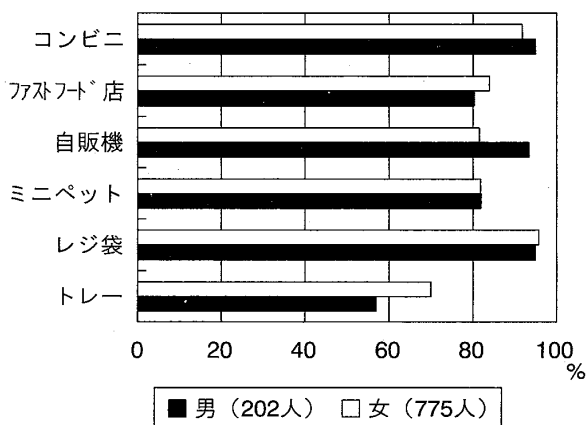
問 15 (1) 家電製品の保有率



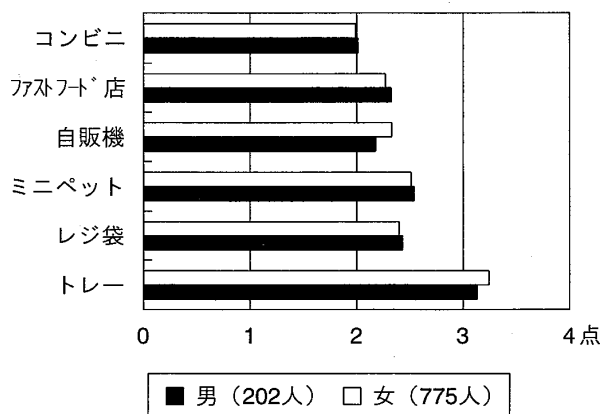
問 15 (2) 家電製品の利用率



問 16 (1) サービスの利用率

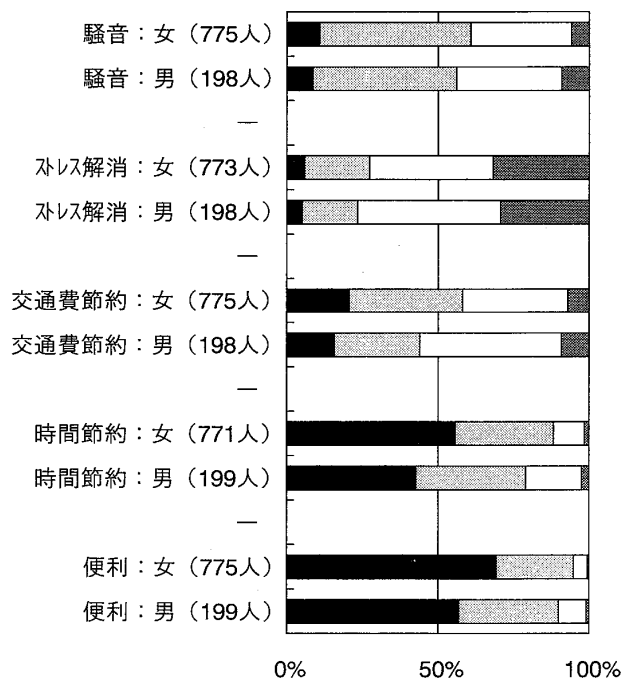
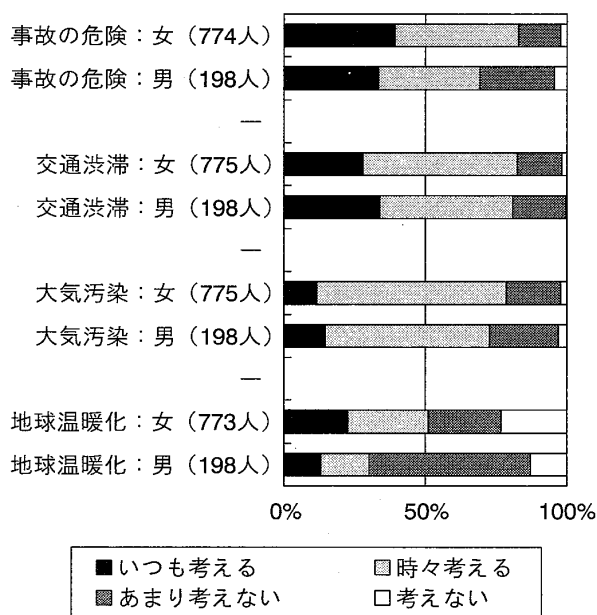


問 16 (2) サービスの必要性得点



いが、必要性では女性の方が必要性が低いと回答していた。また、自動販売機の必要性に関しても、女性の方が低い評価をしていた。必要性の評価得点では、トレーは男女共に平均点が「なくても良い (3点)」から「不要 (4点)」の間となっていた。コンビニは他の項目に比べると、男女共に「絶対必要 (1点)」 「あると良い (2点)」が多くみられた。

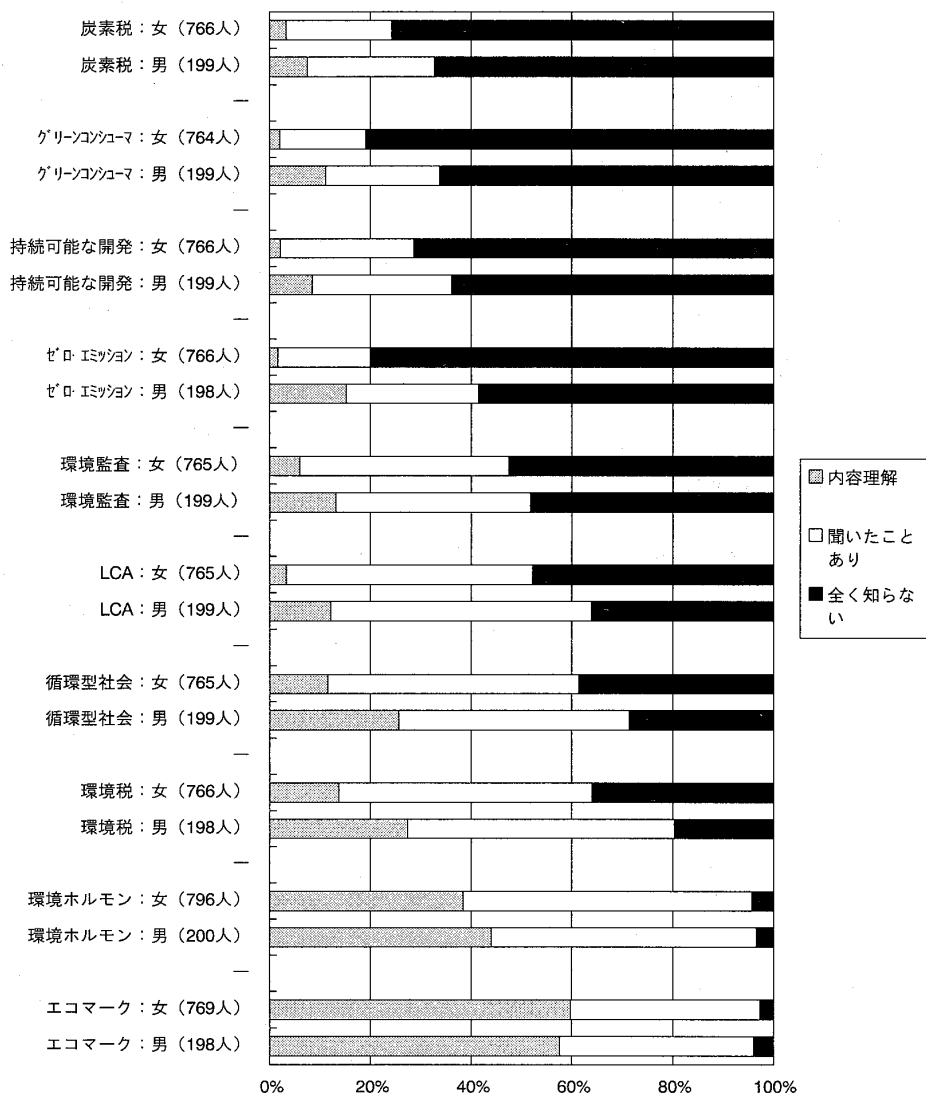
問 17 車を利用する時に考えること



車を利用する時に考えることでは、「いつも考える」「時々考える」割合の高い項目は、「便利」「時間の節約」「交通渋滞」であった。男女差の見られた項目は、便利、時間の節約、交通費の節約、事故の危険性であり、いずれも女性で「考える」と回答する割合が高かった。

(5) 環境に関することばや行動について

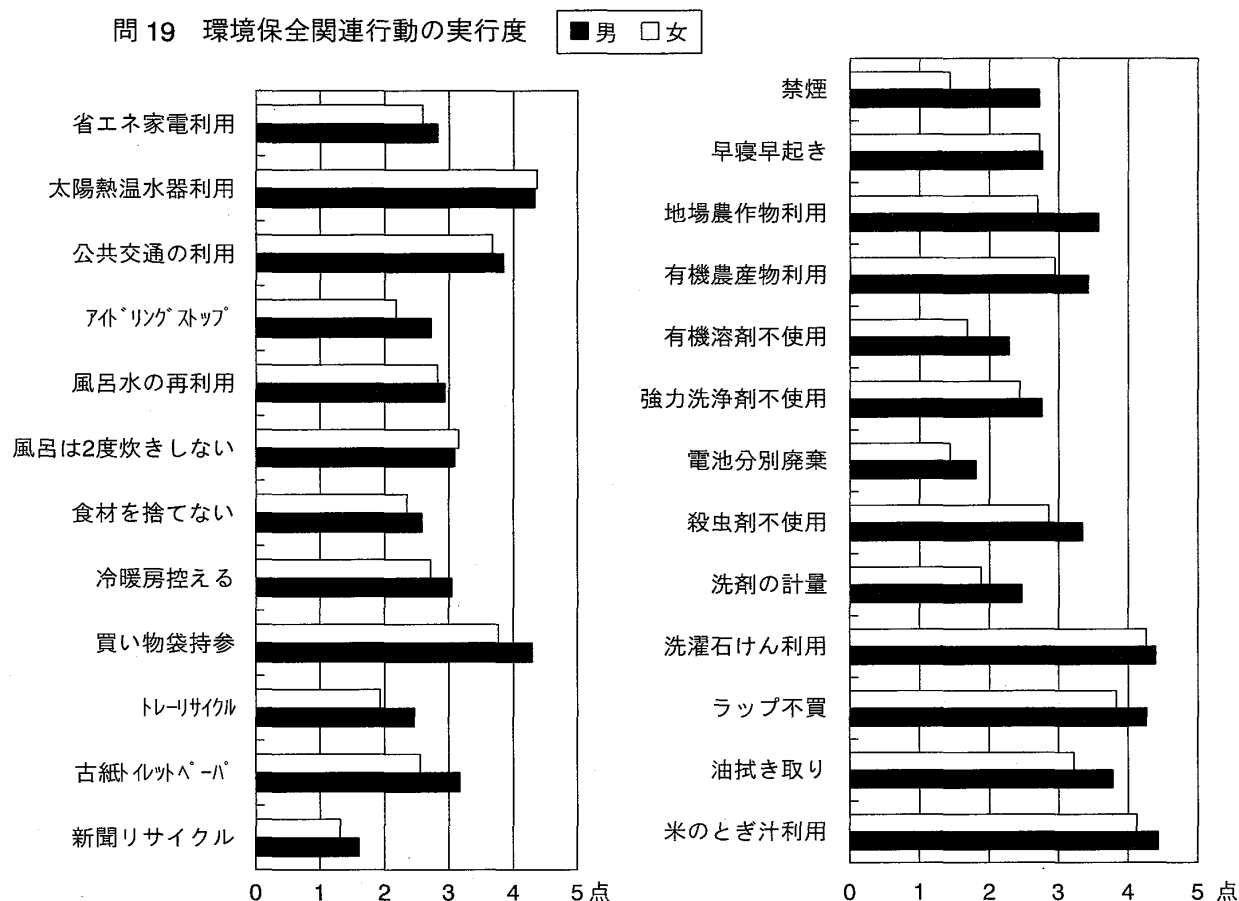
問 18 環境に関連することばの知識



環境に関する10個のことばの理解度を聞いたところ(問18)、最も理解度が高いのはエコマークであり、内容を理解している者が男女とも約60%であった。環境ホルモンは聞いたことがあるが過半数であり、内容を理解している者と聞いたことがある者とを合わせると95%になったが、その他の項目では内容を理解しているよりも、聞いたことがない割合の方が高くなっていった。残りの項目である、環境税、ゼロエミッション、グリーンコンシューマ、炭素税、持続可能な開発、環境監査、循環型社会、ライフサイクル・アセスメントはいずれも男性の方が女性よりも、ことばを知っているとする者が多かった。これは男性の方が経済社会問題に対する関心が高いことを示唆する結果と考えられる。

環境保全に対する行動の実行状況(問19)は、高月等の作成した25項目のライフスタイルチェックシートにより調査した。環境保全行動の実施を「いつも取り組んでいる(1点)」から「まったく取り組んでいない(5点)」までの5段階で評点し、実施得点を男女で比較したところ、25項目中19項目で女性の実施度が有意に高かった。

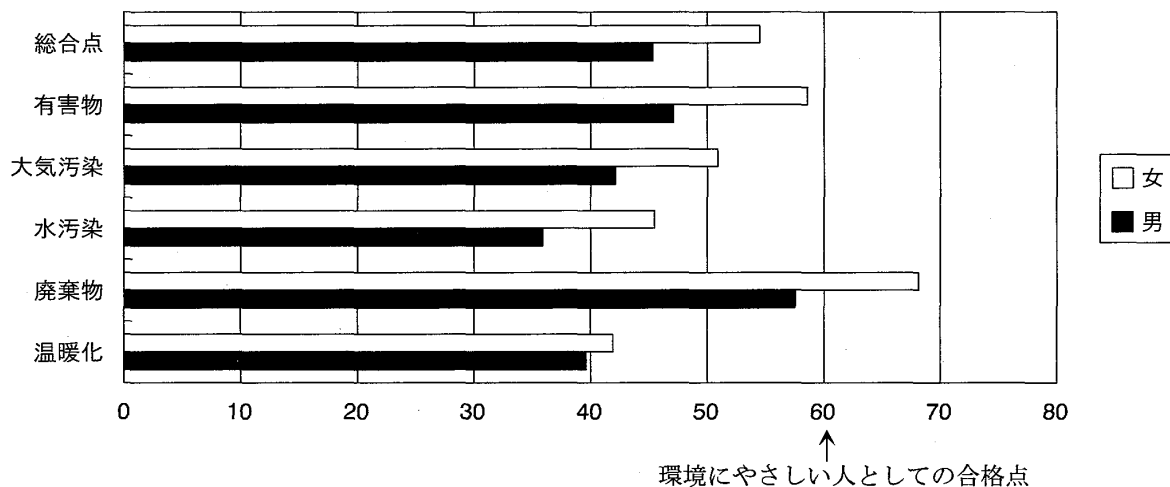
問 19 環境保全関連行動の実行度



点1：いつも、2：だいたい、3：時々、4：取組むこともある、5：全く取組んでいない

また、エコポイントの総合得点も男性より女性が有意に高かった。項目別得点では地球温暖化のエコポイントでは男女差がなかったが、その他の項目（廃棄物、水汚染、大気汚染、有害物）では女性の方が有意に高かった。

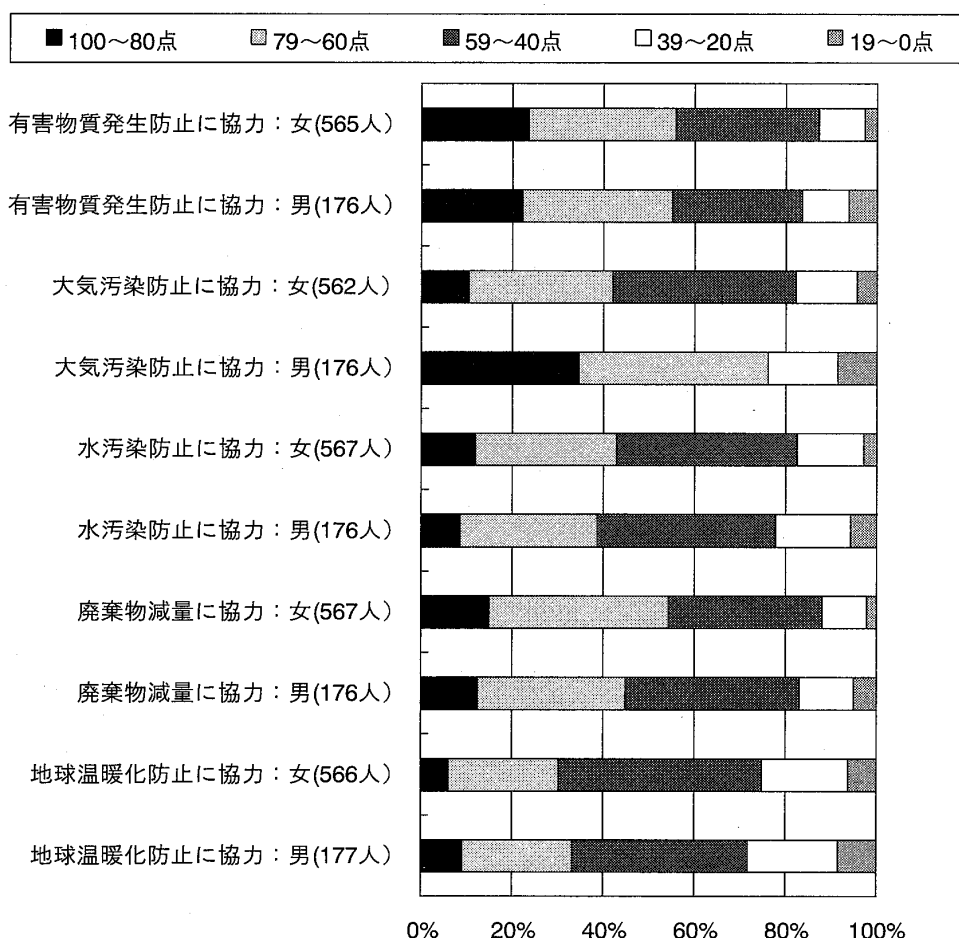
問 19 (2) エコポイント



項目別エコポイントは男女共に廃棄物が最も高く、温暖化が最も低かった。これは、全体としては女性の方が環境保全に結びつく行動をとっていることが、地球温暖化防止

に結びつく行動は男女共に積極的に行われていないことを示していた。しかし、ここに掲げた質問項目が、日常生活の家事に相当する内容が多いために、家事を担当していない男性が「取り組んでいない」と回答する割合が高かった可能性も考えられる。したがって、男性の方が環境保全行動を実施していないとは一概には言いきれない。

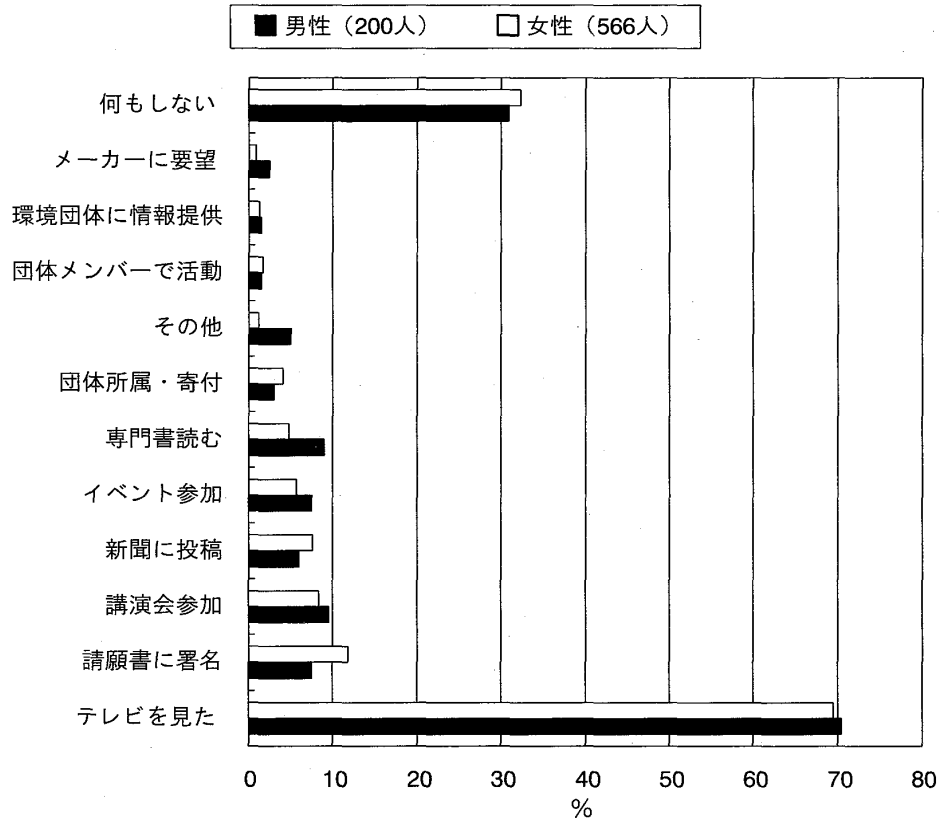
問 20 環境問題解決への協力



回答者は日常生活の中で、環境問題を解決するためにどの程度協力しているだろうか(問 20)。5つの解決策について、程度を表わす点数(0点から100点まで5つの段階)で回答を求めた。各項目について協力度の平均値(各段階の中央値に対しての荷重平均)を比較すると、最も値が大きい項目は「有害物質発生防止に協力」(女性62.8, 男性60.9)であった。以下大きき順に並べると、「廃棄物減量に協力」(女性61.0, 男性57.0), 「水汚染防止に協力」(女性56.9, 男性53.9), 「大気汚染防止に協力」(女性56.0, 男性52.4), 最下位は「地球温暖化防止に協力」(女性51.0, 男性51.1)であった。

有害物質発生防止がもっとも高い値であることは、有害物質としてダイオキシンを例に挙げたことによるのかも知れない。「廃棄物減量に協力」は約60で、水質汚染、大気汚染防止よりも平均値は大きく、取り組みやすい行動といえる。いずれの場合も女性の協力程度が高く、殊に廃棄物減量に関しては、女性の値が有意に高い。しかし、地球温

問 21 「環境問題」に関して行った行動



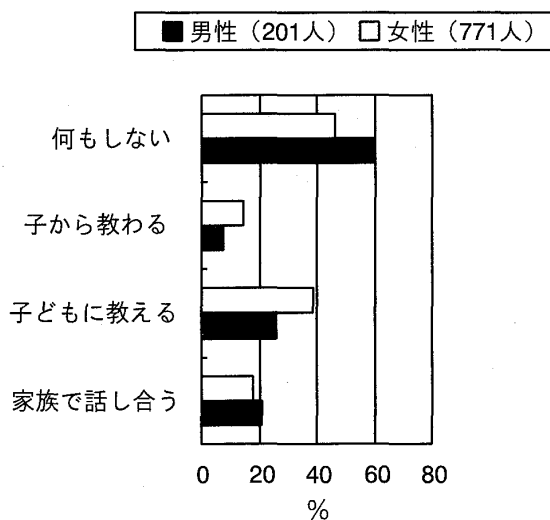
暖化防止は男女とも協力度 51 で協力するものと協力しないものがほぼ同数であることを示した。

1年間で「環境問題に関してどのような行動を行ったか」(問 21)については、最も多いのが「テレビの特集番組を見た」であり女性 69.5%、男性 70.5%であった。一方、何もしなかったものは女性 32.3%、男性 31.0%であった。これに対し、「請願書に署名した」といった能動的な行動を取った人々の割合では、女性 11.8%、男性 7.5%、「講演会に参加した」が女性 8.4%、男性 9.5%であった。イベントに参加、団体メンバーとして活動、寄付、政治的活動、専門書を読む等をしたものはそれぞれ 10%以下であり、極めて少なかった。

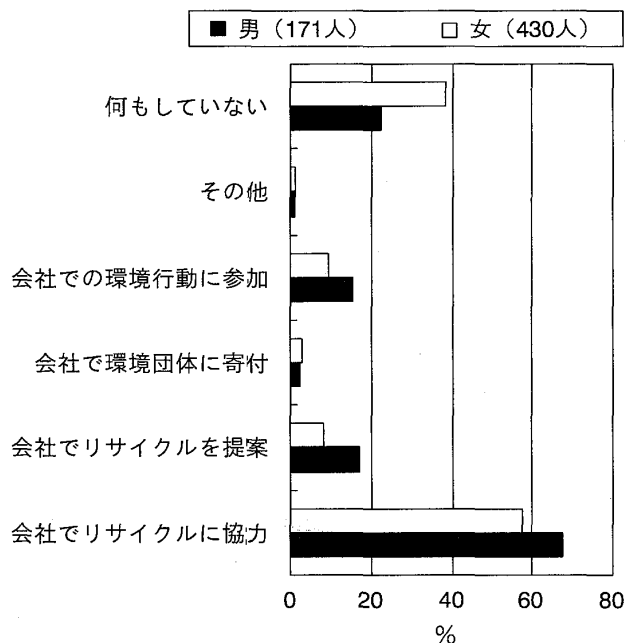
家庭での環境についての話し合い状況(問 22)では、何もしていない家庭の数は女性 46.4%、男性 60.2%であった。話し合いのある家庭では、親が子どもに教える場合は母親が 38.9%、父親が 25.9%であった。これに対し、子どもから教わる場合は、母親 14.5%、父親 7.5%であり、家族で話し合う場合は、女性 17.5%、男性 20.9%であった。いずれの場合でも母親は父親よりも、環境問題を話題として深く子供たちとかわっていることを示す。

企業の中で社員としてどのような行動を取っているであろうか(問 23)。勤務者(常勤・パート・アルバイト)のうちで、社員として環境行動を何もしていない人は、女性 38.8%、男性は 22.8%であった。それゆえ何らかの環境行動をしている者は女性 61.2%、

問 22 環境問題への家庭教育



問 23 社員としての環境行動

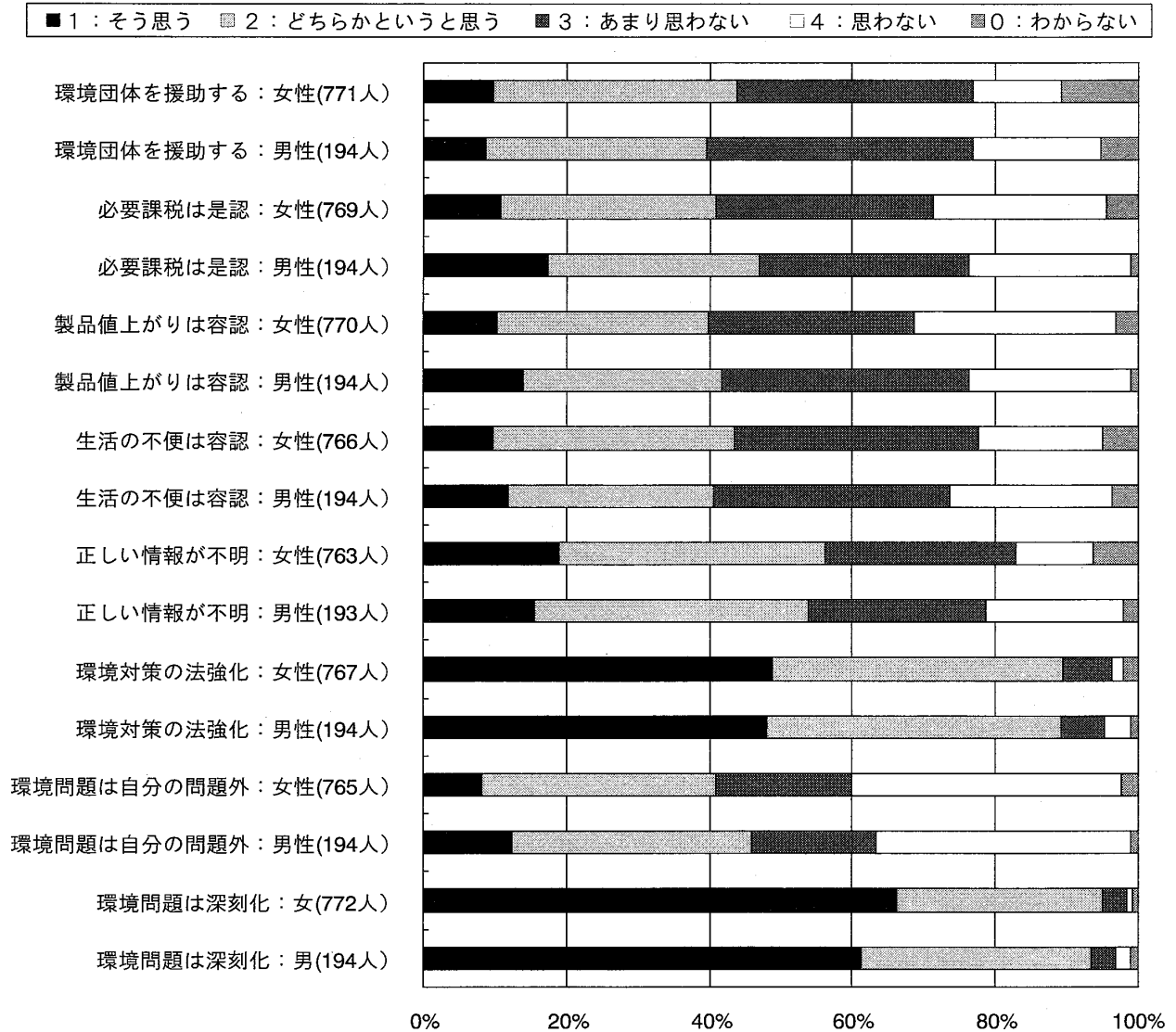


男性 77.2%であった。会社で行った環境行動のうちで参加者の多いものは、リサイクル活動であり、男性 67.8%、女性 57.2%が参加した。リサイクルの提案には男性 17%、女性 8.4%、その他の環境行動には、男性 15.0%、女性 9.3%の参加であった。男性は会社で環境保全活動をしていることが分かる。

環境について、回答者はどのように考え、感じているのであろうか（問 24）。設問に対して肯定的回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）と否定的回答（「あまりそう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合計）に分けて考える。

- 1) 「環境問題は今後深刻化するか」に対しては、肯定的回答は女性 95.1%、男性が 93.3%、否定的回答は女性 4.0%、男性 5.7%であり、ほとんどの回答者は深刻化すると受け止めていた。
- 2) 「環境問題は自分の問題として考えにくい（すなわち、自分の問題ではない）」に対して、肯定的回答は女性 40.9%、男性 45.9%、否定的（自分の問題である）回答は女性 56.6%、男性 53.1%であった。女性は男性に比べて環境問題を自分のものとして考える傾向がある。
- 3) 「環境対策や規制の強化」について、男女ともに肯定的回答は 9 割に近く、否定的回答は 1 割であった。ほぼ 9 割の人々が法や規制の強化を望んでいた。
- 4) 「環境に関して何が正しい情報か分かるか」という問いに対して、肯定的回答は女性 56.1%、男性 53.9%であるのに対し、否定的回答は女性 37.6%、男性 44.0%であった。
- 5) 「環境保全のために生活が不便になっても良いか」という問いに対しては、肯定的回答は女性 43.6%、男性 40.7%であり、否定的回答は女性 51.3%、男性 55.7%であった。意見は肯定と否定に二分され、やや否定的意見が多かった。
- 6) 「環境保全のための製品価格の値上がりは容認」については、肯定的回答は女性

問 24 環境についての考え・感じていること

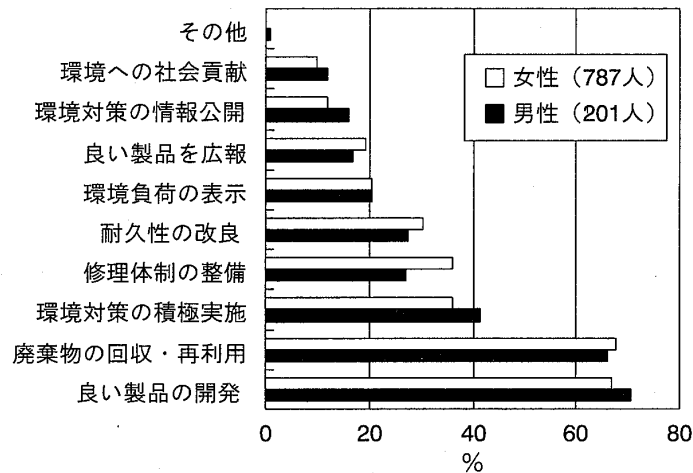


39.7%, 男性 41.8%, 否定的回答は男女共に 57%であり、やや否定的な意見が多かった。

- 7) 「環境保全の費用を課税でまかなうこと」については、肯定的回答は女性 41.0%, 男性 46.9%, 否定的回答は女性 54.5%, 男性 52.1%であり、男女ともにやや否定的な意見が多かった。
- 8) 「環境保全活動をする市民・環境団体を支援すること」については、肯定的回答は女性 43.7%, 男性 39.7%, 否定的回答は女性 45.5%, 男性 55.2%であった。女性に比較して男性はやや否定的な意見を持つものが多かった。

以上の結果から、回答者の一致した意見としては、①今後の環境問題の深刻化、②環境保全のための規制・対策の強化を望んでいることが上げられる。示された解決策に対しての意見では、③肯定的なものが4割、否定的なものが6割で、多少の男女差が見られた。

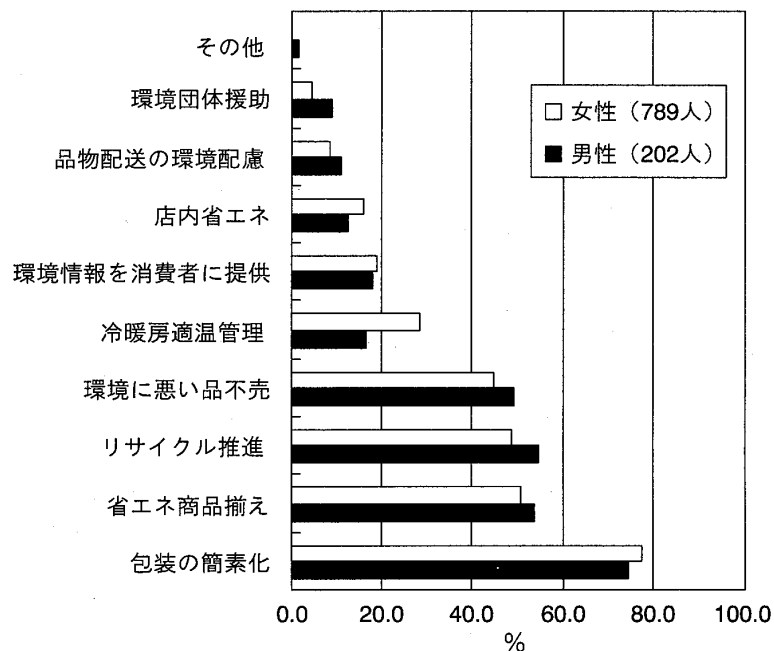
問 25 環境問題解決へのメーカーの姿勢 (3つ選択回答)



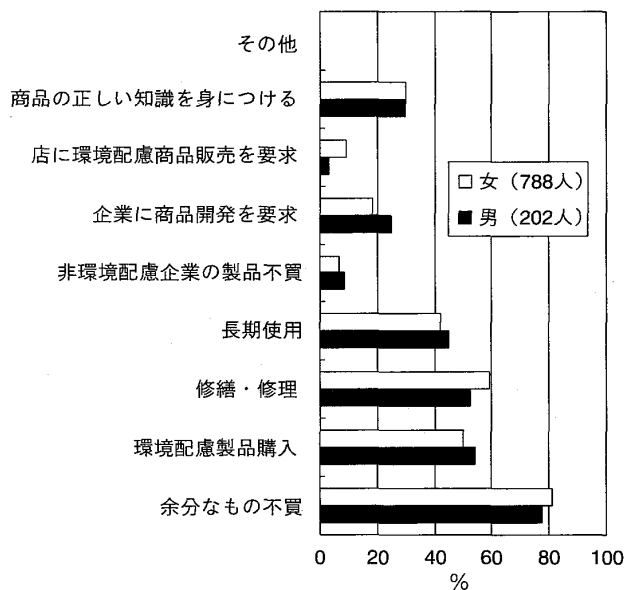
(6) 環境についての考え・感じていることについて

回答者は環境問題解決のためにメーカーに対して、何を要望しているか (問 25:10 個の回答選択から 3つ選択) について、結果を回答数の多さで 3つのグループに分けて考える。回答数の最も多い第 1 グループには、環境に良い製品を積極的に開発する (女性 67.0%, 男性 70.6%), 廃棄物の回収・再利用 (女性 67.6%, 男性 66.2%) があり、それぞれ約 7 割の回答者がこれらの項目を選んだ。第 2 のグループは約 40 ~ 30 % の回答率を持つもので、それらには環境対策 (女性 37 %, 男性 41.3%), 修理体制 (女性 34.3%, 男性 26.9%), 耐久性の改良 (女性 30.5%, 男性 27.4 %) であった。第 3 のグループは、環境負荷の表示 (女性 20.4 %, 男性 20.6%), 良い製品を広報 (女性 19.4 %, 男性 16.9 %), 環境対策の情報公開 (女性 11.9 %, 男性 15.9 %), 環境への社会貢献 (女性 9.9 %, 男性 11.9 %) 等であった。

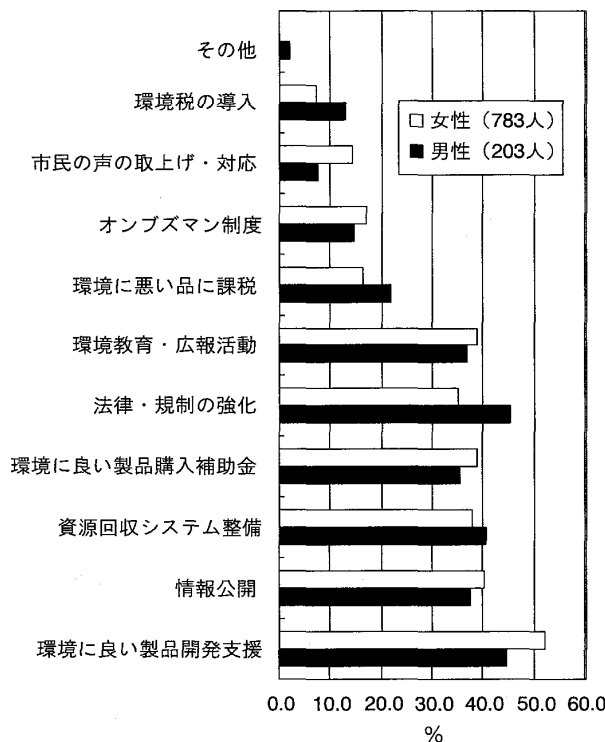
問 26 環境問題解決への小売店の姿勢



問 27 環境問題解決への市民の姿勢(3つ選択回答)



問 28 環境問題解決への行政の姿勢



回答者はデパート・スーパー・小売店に対して、環境問題解決のために何を要望しているか(問 26:10 個の回答選択から 3つ選択)について、結果を回答数で 4つのグループに分けて考える。

回答数の最も多い第 1 グループには、8 割に近い回答者が上げている包装の簡素化(女性 77.4%, 男性 74.8 %)である。第 2 グループは商品に関するもので、省エネ商品を揃える(女性 50.7%, 男性 53.5 %), リサイクルの推進(女性 49.0%, 男性 54.5 %), 環境に悪い品を販売しない(女性 45.0%, 男性 49.5 %)等で、それぞれの値は約 5 割である。第 3 グループは、省エネ関係の設備に関するものや経営に関するものである。それらは、冷暖房の管理(女性 28.4%, 男性 16.3 %), 環境情報の提供(女性 18.8 %, 男性 17.8%), 省エネルギー(女性 15.8%, 男性 12.4 %), 品物配送時の環境配慮(女性 8.6%, 男性 10.9 %)等であった。第 4 グループは、環境団体への支援(女性 4.7%, 男性 8.9 %)であった。

回答者は市民に対して環境問題解決のために何を要望しているか(問 27:10 個の回答選択から 3つ選択)について、結果を回答数によって 3つのグループに分けて考える。

第 1 グループは回答者の約 8 割を占める意見で、余分なものは買わない(女性 81.1 %, 男性 77.2 %)であった。第 2 グループは、修理・修繕(女性 59.4 %, 男性 52.5 %), 環境に配慮した商品を購入する(女性 49.9 %, 男性 54.0 %), 購入した商品を長期に使用する(女性 41.9 %, 男性 45.0 %)等であった。

第 3 グループには商品の正しい知識を身につける(女性 29.6 %, 男性 29.7 %), メーカーに環境配慮商品の開発を要求する(女性 18.8 %, 男性 24.8 %), 小売店に環境配慮

商品の品揃えを要求する（女性 9.1%，男性 3.0%）、環境に配慮していない商品を買わない（女性 6.5%，男性 8.4%）等、さまざまな意見が含まれる。

回答者は行政や政治家に対して環境問題解決のために何を要望しているか（問 28：10 個の回答選択から 3 つ選択）について、結果を回答数で 4 つのグループに分けて考える。

第 1 グループには最も回答割合が高いもので、環境に良い製品の開発を支援する（女性 52.0%，男性 44.8%）が属する。

第 2 グループは、回答率が 40%～35%のもの 5 つであった。これらは資源回収システムの整備（女性 37.9%，男性 40.4%）、情報公開（女性 40.1%，男性 37.4%）、環境に良い製品の購入補助（女性 37.9%，男性 40.4%）、法律・規制の強化（女性 39.0%，男性 40.4%）、環境教育と広報活動（女性 39.0%，男性 36.9%）等であった。行政が現在取り組んでいる、あるいは取り組み始めたそれらの環境施策を推進することへの要望である。

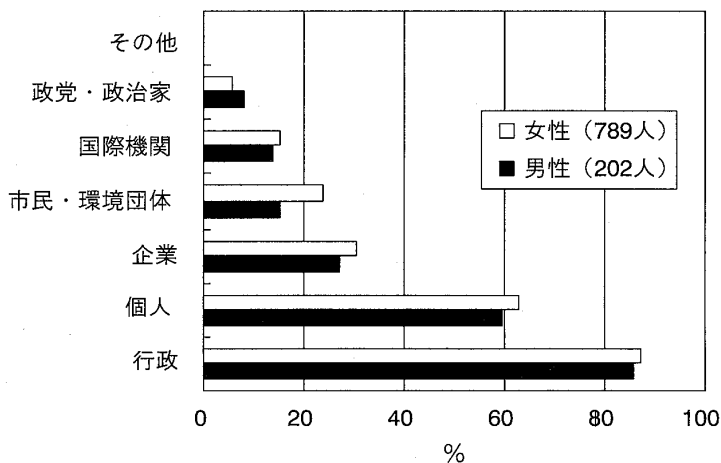
第 3 グループはオンブズマン制度、環境に悪い製品に対する課税、市民の声を取上げる等で回答率が 20%以下のものとした。第 4 グループには環境税の導入が含まれていたが、回答率は（女性 7.3%，男性 12.8%）で低い値であった。

回答者は環境問題の解決を中心になって担うものは誰であると考えているだろうか（問 29：7 つの回答選択肢から 3 つ選択）。

圧倒的に高い回答率であったものは行政（女性 87.1%，男性 85.6%）であった。次は個人（女性 63.0%，男性 59.4%）が続く、第 3 位は企業（女性 30.4%，男性 27.2%）であった。第 4 位は市民環境団体（女性 24%，男性 15.5%）、第 5 位が国際機関（女性 15.0%，男性 13.9%）で、最下位は政党・政治家に対して（女性 5.6%，男性 7.9%）であった。一人当たりの回答数は平均して 2 であった。

環境問題の解決に対して、回答者はもっぱら地方自治体に期待していることを示す結果であった。問 25 では、回答者はメーカーに対して、環境に良い商品を開発すべきこ

問 29 環境問題解決の中心



と、廃棄物の回収・再利用を推進すべき等、企業の責任を問う意見を持っていたにもかかわらず、問 29 では環境保全に対する企業責任を問う事を考えていない。さらに、環境保全のために法律や規制を強化すべきと考えているにもかかわらず、政党や政治家に対する期待はほとんどない。回答者には政党や政治家が本来なすべき仕事、環境を良くしたいという市民の意志を実現する事であるということが、残念であるがよく理解されていない事を示していた。

文 献

- 1) 総理府：環境保全に関する世論調査，総理府世論調査報告書，1993.
- 2) 広瀬幸雄：環境と消費の社会心理学，名古屋大学出版会，1997.
- 3) 地球環境とライフスタイル研究会（国立環境研究所）：地球環境問題をめぐる消費者の意識と行動が企業戦略に及ぼす影響《消費者編：日独比較》，1999年3月，1999.
- 4) 小谷野錦子，柳堀朗子：身近な環境問題に関する実態調査報告 I，1998年3月，1998.
- 5) 浅川富美雪他：大学新入生の環境問題に関する意識と行動，学校保健研究 41，246-253，1999.
- 6) 高月紘：自分の暮しがわかるエコロジー・テスト．講談社，1998.

環境全体についておたずねします。

問8. あなたは近年の環境状況についてどのように感じていますか。あなたの地域(あなたの住まいとその周辺、自治体)、日本全体、世界全体について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪化している	悪化している
1)あなたの地域	1	2	3	4	5
2)日本全体	1	2	3	4	5
3)世界全体	1	2	3	4	5

問9. あなたが次の中で非常に深刻な問題だと思うことすべてに○をつけてください。

1. 飲料水の汚染	2. 家庭ごみの処理	3. 大気汚染
4. 地球温暖化	5. 農薬による土壌・地下水汚染	6. 湖・河川・海洋汚染
7. 森林減少	8. 道路や施設の建設による自然破壊	9. オゾン層の破壊
10. 遺伝子組換え食品の普及	11. 化学物質による身体への影響	12. 酸性雨
13. 砂漠化	14. 野生生物種の減少	15. 熱帯林の減少
16. 原子力による発電	17. 産業廃棄物の処理・処分	

問10. あなたの家の周りの環境で改善すべきと思うものを3つ選んで○をつけてください。

1. 空気・大気のごみ	2. 川・水辺のごみ	3. 車などの騒音・振動
4. 変なにおい・悪臭	5. 土の汚染、地盤沈下	6. 植物・花など緑の量
7. 野生の生き物の数・種類	8. 歴史や文化の保護対策	9. 商業施設の質・量
10. 道路・交通事情	11. 公園や遊び場	12. 治水や地震対策
13. その他()		

ごみやリサイクルについておたずねします。

問11. あなたが日ごろリサイクルに出しているものすべてに○をつけてください。

1. 新聞紙などの紙類	2. ビンや缶	3. 牛乳パック	4. ペットボトル
5. 食品のトレイ	6. 中古衣類	7. その他(具体的に)	

問12. あなたの住んでいる地域のごみの分別方法について、あなたはどのように感じていますか。それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1)分別数	1. 多い	2. ちょうどよい	3. 少ない
2)分別の方法	1. わかりやすい	2. わかりにくい	3. どちらでもない
3)1ヶ月の回収回数	1. 多い	2. ちょうどよい	3. 少ない
4)他に分別回収して欲しいもの	1. ない	2. ある(具体的に)	

問13. あなたの住んでいる地域では有料指定袋や粗大ごみに貼るシールなど、ごみにお金を払う制度がありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1)一般ごみ	1. ある	2. ない	3. わからない
→ その制度はごみ減量に効果があると思いますか	1.ある	2.ない	3.わからない
2)粗大ごみ	1. ある	2. ない	3. わからない
→ その制度はごみ減量に効果があると思いますか	1.ある	2.ない	3.わからない

問14. 耐久消費財(例えば洗濯機)のリサイクル・廃棄費用を、消費者はどのように負担したら良いと思いますか。あなたのお考えに近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 製品を捨てる時に払う | 2. 製品を買うときに処理費も一緒に払う |
| 3. 既に支払っている税金でまかなう | |
| 4. その他(具体的に) | |

日ごろの生活についておたずねします。

問15. あなたの家庭には以下のものがありますか。また、保有の有無に関わらず、どの程度必要だと思いますか。保有の有無と利用状況についてそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(携帯電話やファックスは自分が持たなくても、持っている人にかける・送る場合も利用することになります)

	保有の有無		利用頻度		
	ある	ない	よく使う	時々使う	使わない
1)電子レンジ	1	2	1	2	3
2)クーラー	1	2	1	2	3
3)コンピューター	1	2	1	2	3
4)ファックス	1	2	1	2	3
5)テレビ	1	2	1	2	3
6)携帯電話	1	2	1	2	3

問16. あなたは以下のものを少しでも利用していますか。また、どの程度必要だと思いますか。利用の有無と必要性についてそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	利用の状況		必要性			
	利用する	全く利用しない	絶対に必要	あった方がよい	なくてもよい	不要
1)野菜のトレー (トレー包装の野菜の購入)	1	2	1	2	3	4
2)スーパーの袋(レジ袋)	1	2	1	2	3	4
3)ミニペットボトル飲料 (500ml以下のペットボトル飲料)	1	2	1	2	3	4
4)自動販売機	1	2	1	2	3	4
5)ファースト・フード店	1	2	1	2	3	4
6)コンビニエンス・ストア	1	2	1	2	3	4

問17. あなたは、車を利用するとき次のことをどの程度考えますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	いつも考える	時々考える	あまり考えない	考えたことがない
1)地球温暖化の原因となる	1	2	3	4
2)便利である	1	2	3	4
3)大気汚染をおこす	1	2	3	4
4)時間の節約になる	1	2	3	4
5)交通渋滞をおこす	1	2	3	4
6)交通費の節約になる	1	2	3	4
7)自己の危険が増える	1	2	3	4
8)楽しい・ストレス解消	1	2	3	4
9)騒音をおこす	1	2	3	4

環境に関することばや行動についておたずねします。

問18. あなたは次の言葉をご存知ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	内容を理解している	聞いたことはあるが内容はよくわからない	聞いたことがない
1)環境ホルモン	1	2	3
2)環境税	1	2	3
3)エコマーク	1	2	3
4)ゼロ・エミッション	1	2	3
5)炭素税	1	2	3
6)グリーンコンシューマー	1	2	3
7)持続可能な開発	1	2	3
8)循環型社会	1	2	3
9)環境監査	1	2	3
10)ライフサイクルアセスメント	1	2	3

問19. あなたは次の行動をどの程度実行していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	いつも取り組んでいる	だいたい取り組んでいる	時々取り組んでいる	取り組んでいることもある	まったく取り組んでいない
1)新聞・雑誌をリサイクルに出す	1	2	3	4	5
2)古紙100%のトイレトーパーを使用する	1	2	3	4	5
3)飲料容器やトレーをリサイクルに出す	1	2	3	4	5
4)買い物袋を持参する	1	2	3	4	5
5)着る服で調節し、冷暖房をできるだけ控える	1	2	3	4	5
6)食材は適量を買ひ、残して捨てない	1	2	3	4	5
7)風呂は家族で続けて入り、二度炊きしない (一人暮らしの方は「お湯を少なくするように工夫している」という質問で回答してください)	1	2	3	4	5
8)風呂の水を洗濯等に利用する	1	2	3	4	5
9)駐車時にはアイドリングストップをする (車を持たない人は、1と回答してください)	1	2	3	4	5
10)マイカーを避け自転車・公共交通を利用する	1	2	3	4	5
11)太陽熱温水器を利用する	1	2	3	4	5
12)家電製品は省エネ型を選んで買う	1	2	3	4	5
13)米のとぎ汁は流さずに有効利用する	1	2	3	4	5
14)油を拭き取ってから皿を洗っている	1	2	3	4	5
15)塩ビ系プラスチック(ラップなど)を買わない	1	2	3	4	5
16)洗濯には合成洗剤ではなく石けんを使う	1	2	3	4	5
17)洗剤を量って適量使用する	1	2	3	4	5
18)除草剤や殺虫剤を使わない	1	2	3	4	5
19)車のバッテリーや電池類を正しく分別してから捨てる	1	2	3	4	5
20)トイレや風呂場の強力な洗浄剤を利用しない	1	2	3	4	5
21)有機溶剤(シンナーやベンジン)を利用しない	1	2	3	4	5
22)有機農作物を選ぶ	1	2	3	4	5
23)地場の農作物を選ぶ	1	2	3	4	5
24)早寝・早起きする	1	2	3	4	5
25)たばこを吸わない	1	2	3	4	5

問20. あなたは日常生活の中で次のような環境問題の解決策にどの程度協力していると思いますか。ご自分の協力の程度を100点満点で自己採点し、あてはまる番号に○をつけてください。

	(よく協力) ← 協力の程度 → (協力していない)				
	100~80点	79~60点	59~40点	39~20点	19~0点
(1)地球温暖化防止(エネルギー節約)	1	2	3	4	5
(2)廃棄物の減量	1	2	3	4	5
(3)水の汚染防止(家庭排水の注意)	1	2	3	4	5
(4)大気汚染防止	1	2	3	4	5
(5)有害化学物質(ダイオキシン等)の発生や未処理の防止	1	2	3	4	5

問21. あなたが「環境問題」に関してこの1年間にした行動すべてに○をつけてください。

1. テレビの特集番組を見た	2. 専門書を読んだ
3. 新聞や雑誌、ミニコミ紙に投稿	4. 講演会・成人学級・勉強会などに参加した
5. 直接メーカーや販売店に苦情や要望・質問をした	6. 請願書や要望書に署名した
7. 市民団体や環境団体に情報の請求や提供をした	8. 市民/環境団体のメンバーで日常的に活動した
9. 市民/環境団体に会費を払ったり寄付をした	10. 展示会やイベントに参加
11. その他()	12. 特に何もしていない

問22. あなたの家庭では「環境問題」について次のようなことをしていますか、あてはまるものすべてに○をつけてください。一人暮らしの方は問23にお進みください。

1. 環境保全や環境問題について家族で話し合う	2. 環境の大切さを子ども(親)に教える
3. 子ども(親)から環境配慮について教えられる	4. 特に何もしていない

問23. お勤めをしている方におたずねします。お勤めしていない方は問24に進んでください。あなたがこの1年間に従業員・職員として行なったことすべてに○をつけてください。

1. 会社・団体の省エネ・資源・リサイクルに協力	2. 会社・団体に省エネ・省資源・リサイクルを提案
3. 環境保護団体などへの寄付	4. 会社・団体がすすめる環境保護などの活動に参加
5. その他(具体的に)	6. 何もしていない

環境についての考え・感じていることに関しておたずねします。

問24. あなたは次の項目それぞれをどのように考えますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	そう 思う	どちらか と言えば そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わない	わから ない
1)今後10年のうちに環境問題は一層深刻化する	1	2	3	4	5
2)環境問題は私自身の問題として考えにくい	1	2	3	4	5
3)環境対策は重要であり、法律や規則などを厳しくするのは当然である	1	2	3	4	5
4)環境問題について何が正しい情報か分からない	1	2	3	4	5
5)環境保全のために自分の生活が不便になってもよい	1	2	3	4	5
6)環境保全のために購入する製品の価格が高くなってもよい	1	2	3	4	5
7)環境保全のために必要な費用は課税されてもよい	1	2	3	4	5
8)環境保全活動を目的とする市民・環境団体などを資金や労力面で援助してもよい	1	2	3	4	5

環境問題の解決に関しておたずねします。

問25. あなたは環境問題を解決するためにメーカーがどんなことをしたらよいと思いますか。特に大切なこと3つを選び番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 環境対策を積極的に行なう | 2. 製品の消費エネルギーなどの環境負荷を分かりやすく表示する |
| 3. 環境に良い製品を積極的に広報する | 4. 環境に良い製品を積極的に開発する |
| 5. 修理体制を整備する | 6. 製品の耐久性を良くする |
| 7. 廃棄された製品に対して責任を持って回収・再利用する | |
| 8. 自社の環境対策について具体的に情報公開・開示する | |
| 9. 環境に対する社会的貢献活動や市民や環境団体を資金面や人材面で支援する | |
| 10. その他(具体的に |) |

問26. あなたは環境問題を解決するためにデパートやスーパー・小売店がどんなことをしたらよいと思いますか。特に大切なこと3つを選び番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 省エネ商品、再利用可能な商品を豊富に揃える | 2. 包装を簡素化する |
| 3. ビンやトレイなどのリサイクル活動を積極的に行なう | 4. 環境や健康に悪い商品売らない |
| 5. 店内の省エネに配慮する | 6. 冷暖房を効かせすぎない |
| 7. 市民団体や環境団体を資金面や人材面で支援する | 8. 商品の環境情報を消費者向けに提供する |
| 9. 品物の配送には環境に配慮する(低公害車の利用、配送頻度を減らすなど) | |
| 10. その他(具体的に |) |

問27. あなたは、環境問題を解決するために消費者としてどんなことをしたらよいと思いますか。特に大切なこと3つを選び番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 余分なものは買わない | 2. 環境に配慮した製品を進んで買う |
| 3. できるだけ修繕・修理して使う | 4. できるだけ長く使う |
| 5. 環境に配慮しない企業や店の商品の不買運動をする | 6. 環境に良い製品の開発を企業に要求する |
| 7. 環境に配慮した商品の品揃えを店に要求する | 8. 商品の環境負荷に関する正しい知識を身につける |
| 9. その他(具体的に |) |

問28. あなたは環境問題を解決するために、行政や政治家はどのようなことをしたらよいと思いますか。特に大切なこと3つを選び番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| 1. 環境教育や広報活動を活発に行なう | 2. 環境に関する情報の公開を行なう |
| 3. 環境に関する法律や規制を強化する | 4. 環境に良くない商品・サービスに課税する |
| 5. 環境のための税金を導入する | 6. 環境にやさしい技術や製品の開発や製造を支援する |
| 7. 環境にやさしい製品の購入や使用に助成する | 8. 資源回収などのシステムを自治体で用意する |
| 9. 市民の代表が行政を監察する仕組みを作る(市民オンブズマン制度) | |
| 10. 市民の声を取り上げ、対応を広報紙などで報告する仕組みを作る | |
| 11. その他(具体的に |) |

問29. 環境問題は誰が中心になって解決していくのがよいでしょうか。3つを選び番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1. 行政(国および自治体) | 2. 政党・政治家 | 3. 企業 | 4. 個人 |
| 5. 市民団体・環境団体 | 6. 国連など国際機関 | 7. その他(具体的に |) |

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入漏れのないことをご確認のうえ、ご返送ください。